

9月25日（水）

在サンクトペテルブルク日本国総領事館との意見交換会

サンクトペテルブルグ市は、市内にネヴァ川や運河が縦横に流れ、美しい石造建築物が建ち並ぶことから「水の都」「北国のベニス」と呼ばれ、行政、経済、学術文化の中心地となっているロシア第二の都市である。本市とは1979年8月16日に姉妹都市提携を行った。



在サンクトペテルブルク日本国総領事館

サンクトペテルブルグ市に到着した9月25日は、在サンクトペテルブルク日本国総領事館を訪問し、食事をしながら飯島泰雅 在サンクトペテルブルク日本国総領事をはじめ、総領事館スタッフとの意見交換を行った。

【意見交換概要】

- 両市ではこれまで、上下水道、文化、学術などの交流を深めてきた。（大阪市）
- 日露政府間においても、都市環境分野ではサンクトペテルブルグ市をモデル都市としてさらなる官民連携を進めていくことになったとのことであり、この動きも踏まえ、これまで技術交流を進めてきた上下水道に加え、新たに廃棄物処理分野や道路交通施策等についてもそれぞれの知見を共有し、交流を進めていきたい。（大阪市）
- ロシア及びサンクトペテルブルグの最新情勢や交流実績について。（総領事館）

9月26日（木）

サンクトペテルブルグ市表敬訪問



スモーリヌィ（サンクトペテルブルグ市庁舎）

もともとは貴族女子学院として1809年に建造されたサンクトペテルブルグ市庁舎は、かつてこの地に船の水漏れを防ぐための松脂（スモラ）の倉庫があったことからスモーリヌィと呼ばれている。

市庁舎玄関において厳しいチェックを受けた後、サンクトペテルブルグ市庁舎内にある博物館や、レーニンがロシア

革命の際に使用した事務所、革命により女子学院としては閉鎖された後、全ロシア・ソヴィエト中央執行委員会等が入り十月革命の本部となった場所などの案内を受け、サンクトペテルブルグ市の歴史や成り立ち等について説明を受けた。

その後、アレクサンドル・ベグロフ知事を表敬訪問し、ベグロフ知事、松井市長、広田議長の挨拶ののち、意見交換を行った。

【ベグロフ知事 挨拶要旨】

サンクトペテルブルグ市を代表して、皆様の来訪を歓迎する。こうして両市の姉妹都市提携をともに祝えることをうれしく思う。

サンクトペテルブルグ市では、2018年には北海道、酒田市、横浜市、福岡市が新たなパートナーとなったが、言うまでもなく姉妹都市として40周年を迎える大阪市が何よりも重要なパートナーである。

40周年を記念して、今年は大阪市でもサンクトペテルブルグ市でも様々なイベントを開催している。例えば廃棄物処理に関しては、この度大阪における焼却発電をテーマにしたセミナーを行っていただき、技術協力が拡大するものと確信している。また、水道分野の技術交換も盛んに行われており、後ほどサンクトペテルブルグ上下水道公社（ボドカナル社）との覚書を更新していただきたいと考えている。

サンクトペテルブルグ市においては交通問題も近年重要になってきており、日本、大阪市で蓄積された立体駐車場やスマート信号機、交通輸送の乗り換えハブに関する設計や建設の技術などに非常に興味を持っている。

また、姉妹都市通りというプロジェクトにも大変関心があり、別途ワーキング会議を開催させていただく予定である。専門家の交流という意味では、建築物の排出構造部門、排出モニタリングなどにも非常に関心を持っており、スマート住宅の技術適用性についても意見交換できればと思う。また、まちづくりの分野においても市民が楽しめるテーマパーク的な公園やスポーツセンターなどを設計、整備する事業も進めており、協力できそうな分野については積極的に協力を進めていきたい。

今年が姉妹都市40周年ということで、様々な分野での協力、人的交流が進められている。市長は第83番学校を視察されると伺っているが、そちらでは1994年から日本語が教えられており、日本の歴史や文化についても学ばれている。

のちほど議事録にも署名することとなるが、今後とも経済、都市環境、廃棄物処理、交通問題、文化、観光などの分野で協力していけたらと思う。

皆様のサンクトペテルブルグ市での滞在が素晴らしい思い出となるよう祈念する。



十月革命の本部となった場所

【松井市長 挨拶要旨】

この度は大変温かくお迎えいただき、心より感謝申し上げます。提携40周年の節目の年に Санкт-ペテルブルグ市を訪問できて、大変うれしく思う。

また今回は、優れた技術を有する大阪の企業である、日立造船株式会社、芦森工業株式会社、川崎重工株式会社、積水パイプリニューアル、大阪ガス株式会社に加え、大阪商工会議所、大阪水・環境ソリューション機構も同行し官民連携して訪問させていただいている。

昨年は、ユーリ・シェステリコフ 知事府知事議会代表を大阪にお迎えし、上下水道等幅広い分野で交流を深めた。

この度、日露政府間で、 Санкт-ペテルブルグ市をモデル都市として、都市環境分野で官民連携をさらに進めるとお聞きしている。本市としても、国の動きも踏まえ、上下水道に加えて、経済、廃棄物処理、道路交通、観光、教育・学術分野について、交流を深めていきたい。是非ご理解、ご支援をお願いしたい。

2025年には、国際博覧会が大阪のベイエリア「夢洲」で「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして開催される。皆様にお越しいただきたい。

40周年記念事業の実施に当たり、頂いた多大なるご支援に改めて感謝申し上げ、私からの挨拶とする。



意見交換の様子



ベグロフ知事と

【広田議長 挨拶要旨】

ベグロフ知事をはじめ皆様方におかれては、ご多忙中にもかかわらず、私どもを温かくお迎えいただき、厚くお礼申し上げます。

記念すべき大阪・ Санкт-ペテルブルグ姉妹都市提携40周年に、大阪市会を代表してこの Санкт-ペテルブルグ市を訪問させていただき、ともにお祝いすることができることを大変光栄に存ずる。

Санкт-ペテルブルグ市には昨日着いたところだが、市内を流れるネヴァ川を中心とした、世界に冠たる「水の都」の美しさに、また数々の歴史ある建物が続く街並みに感動している。今回の滞在でネフスキー大通りやエルミタージュ美術館を視察さ

せていただくことを大変楽しみにしている。

サンクトペテルブルグ市と大阪市の40年間にわたる貴重な交流の歴史と成果を誇りに思うとともに、さらなる発展に努めてまいらなければならないと考えている。新たな時代に向けて、両都市の絆が今まで以上に緊密なものとなり、友好関係がより一層発展することを祈念する。

2025年に大阪で開催される万国博覧会についても、多くのサンクトペテルブルグ市民の来阪を期待するとともに、この世界的なイベントにあわせ様々な交流事業を盛り上げることにより、姉妹都市としての絆の強さを世界にアピールできれば素晴らしいと考えている。

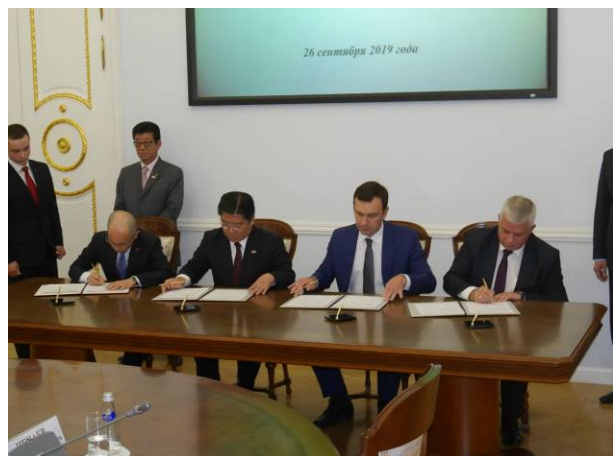
最後になったが、ベグロフ知事をはじめ皆様方に深甚なる感謝を申し上げ、大阪市とサンクトペテルブルグ市のますますの発展と繁栄とを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

【意見交換におけるベグロフ知事発言概要】

- 大阪市長も就任して半年であるところ、サンクトペテルブルグにおける市政の体制も発足したばかりであり、お互いに今後の発展、協力に努めていく。
- サンクトペテルブルグ市は、特に交通や建築などに関する先端技術に関心を持っており、技術交流を進めていきたい。
- 両市の交流を進めていくうえで青少年の交流も非常に重要であり、若者同士の交流が進められれば、将来の両市の関係もさらに発展していくと考える。

意見交換の後、松井市長とベグロフ知事との間で、本日の表敬訪問・意見交換において、お互いのまちの生活環境、経済発展のために協力し、両市の関係を深めることに合意したことを確認する議事録に署名を行った。

続いて、大阪市建設局長、大阪市水道局理事、並びにサンクトペテルブルグ市エネルギー・インフラ整備委員長、サンクトペテルブルグ上下水道公社総裁により、上下水道分野における技術交流の覚書について更新を行う署名式が行われた。



覚書更新の署名式

ネフスキー大通り視察

ネフスキー大通りは、サンクトペテルブルグ市の目抜き通りであり、旧海軍省からアレクサンドル・ネフスキー広場をほぼ一直線に結ぶ、市内でも最も古くに作られた通りの一つである。

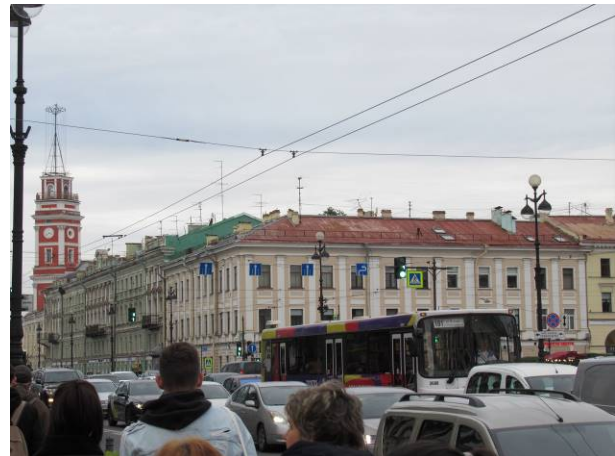
アレクサンドル・ネフスキー大修道院前からネフスキー大通りをバスで走行しながら、大通りの位置するサンクトペテルブルグ市中央区の担当者やネフスキー大通り協会の方より概要説明を受けた後、実際にネフスキー大通りを歩き、古い建物や歴史ある景観をもつ大通りを活かしたまちづくりについての視察を行った。

【説明概要】

- ネフスキー大通りの周辺、ユネスコ文化遺産に指定されている地域は、企業による開発や新たなビルの建設などが禁止または制限されている。
- 大通りの開発はサンクトペテルブルグ市の建設の頃に遡り、今年300周年を迎える。当初は主にアレクサンドル・ネフスキー大修道院が大通りの建設費を負担した。
- アレクサンドル・ネフスキー広場に設置されている騎馬像などは、サンクトペテルブルグ市内の企業からの寄付を原資としている。整備事業自体はネフスキー大通り協会が行っており、官民連携の成功事例とされている。
- 大通りに面する建物のうち1階部分のみが当初建てられたもの。通りの開発に伴い2階、3階と建て増しされることで今の景観が成立した。現在建物の1階には多く的高级店舗、テナントが入居しており、商業の中心となっている。
- 大通りにはいくつかの歴史あるショッピングモールがあるが、なかでもエリセエフ兄弟のショッピングモールは、買い物だけでなく劇場やレストランなどレジャー要素も備えたものとして、現代のショッピングモールの様式の発祥とも位置付けられている。
- 歴史ある建物の活用と商業施設とが共存する通りとなっている。



バス車中より説明を受ける



ネフスキー大通り

エルミタージュ美術館視察・副館長表敬訪問



黄金の孔雀

り時計「黄金の孔雀」など、膨大な展示の一部を足早に鑑賞したのち、スヴェトラナ・アダクシナ副館長と世界的な美術館の運営などについての意見交換を行った。

エルミタージュ美術館は、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエロ、ミケランジェロ、ルーベンス、レンブラントからピカソ、マチスに至るまで莫大なコレクションを誇り、世界三大美術館の一つとされている。展示室の総延長は27km、絵画その他の収蔵品は300万点以上にのぼる。

展示作品の概要や展示意図などについて、ガイドからの説明を受けながら、「パビリオンの間」に設置されている世界最大のからく



説明を受ける代表団

【意見交換概要】

- サンクトペテルブルグ市は、エルミタージュ美術館をはじめとする、多くの芸術、文化集客施設を有する。
- 大阪市でも、海外から高い評価を得ている世界有数の佐伯祐三コレクションなど、約4600点の近現代美術のコレクションを有している。2022年には新しい美術館を開館する予定であり、経済だけでなく文化の中心地も目指している。世界中から多くの方々に訪れていただけのまちとなるよう、世界第一級の文化観光都市づくりに取り組んでおり、エルミタージュ美術館の取り組みからも学んでいきたい。



アダクシナ副館長との意見交換の様子